

## 新余目支所(旧梵天)を庄内町に売却 新余目と立川支所を統合

### J A庄内たがわ総代説明会

J A庄内たがわ総代説明会が8日、新余目支所2階ホール(旧梵天)で開かれました。

立川支所は青果物集出荷場へ併設するとしています。

説明は、北部地区の支所施設の再編についてです。

庄内町吉方地内に新施設建設を予定

上しました。新たに建設される北部支所(仮称)の候補地は、庄内町の吉方地内です。

その内容は、現在の新余目支所(旧梵天)を庄内町に売却し、新たに金融店舗として北部支所(仮称)を、新余目支所と立川支所を統合して建設するとい

うものです。営農事業は、新余目支所はグリーンコーナ―庄内町店へ併設し、



### ←日本共産党のはてなリーフから⑦

## 中国 社会主義と無縁の覇権主義



### 力による現状変更、人権侵害 ——「共産党」の名に値しない

東シナ海や南シナ海での覇権主義、香港やウイグルでの人権抑圧…。まともな批判をさける日本政府とちがい、日本共産党は「覇権主義をやめよ」「弾圧を中止せよ」「国際法を守れ」と面とむかってキッパリ批判しています。

### おくれた発展段階から出発 ——誤りの背景に中国の歴史

「自由と民主主義」を体験することなく革命、中華帝国の時代からの大国主義——中国の誤りの根本にはこうした歴史が横たわっています。発達した資本主義国からの社会変革をめざす日本では絶対にこんな誤りはおこりません。



「尖閣諸島は日本の領土」といっかんして主張する日本共産党。中国に「領海侵犯するな」と繰り返し要求

8

## 藤沢周平を読む30

鈴木重雄(八色木)

百人町の龍興寺は、耳にわんわんとひびくほどの蟬が鳴いていた。

いま、文四郎は父の遺体引き取りに來ている。荷車を一人で引いてきたのだ。

文四郎は男たちに手伝ってもらって、車に敷いたむしろの上に父の遺体を移した。

遺体を動かすと、新しい血がむしろの上にこぼれた。

そうしていると文四郎の脳裏を、白日の下でそんなことをしている自分を信じられない思いが横切るのであった。

車を引いて文四郎は炎天下、坂の道を家まで来たとき、組屋敷の方から小走りに駆けてくる少女の姿が映った。ふくだとわかった。ふくは、車の上の遺体に手を合わせ、

文四郎によりそって梶棒をつかんだ。

無言のままの眼から涙がこぼれるのをそのままに、ふくは一心な力をこめて梶坊を引いていた。蟬しぐれの中であつた。

百人町の龍興寺は、日吉町の龍覚寺と思われる。

この辺りに戦時中、馬市場があつた気がする。

その頃は軍馬の徴用があつて、農耕馬を徴用するための検査があつた。

馬の背に乗ってトポトポと行った。

やがて令状が來て、藤島駅から下り列車に乗って、盛岡に向かった。

盛岡には砲兵隊や騎兵隊があつたからであろう。

## 河津桜で入学おめでとう

藤島小学校の入学式が11日行われ、早咲きの河津桜が満開となり、新入生を歓迎しました。桜は「藤島河津桜の会」(工藤正喜会長)が2014(平成26)年、3本を植樹しました。



山新が6日付けで「花の下で入学写真、どうぞ」と報道したことから、記念写真を撮影する親子が続きました。





# 高力忠兵衛の農政

庄内藩酒井家の農政はどうだったのでしょうか。

酒井家3代目忠勝は庄内入部1622年(元和8)の翌年、新たな領地で検地を徹底し、入部時の庄内藩は13万8千石だったのが、検地の結果5万3千石も増えました。

隠し田畑が摘発されて、農民には年貢の大幅な増税になりました。

## 不作でも高い年貢

年貢は、最上家の時代は刈高制で、刈り取った稲の束数で田の広さを把握し、年貢高が決められていました。

しかし、検地で広さを把握し、石高制にした忠勝は、1625年(寛永2)に定免法に改め、過去数年の平均で年貢高が決められました。

翌年の寛永3年は、多くの餓死者が出るほどの凶作でしたが、豊凶に関係なく強引に年貢が取られました。

未納米には利米(利子)が付けられ、翌年には厳しく取り立てが行われ、川北の遊佐などでは、多くの農民が由利・仙北地方に逃れました。

生産力が安定しないこの時代に、不作でも決まった年貢を納めさせられ、農民は困窮しました。

## 郡代高力忠兵衛

鶴岡市史編纂委員の

本間勝喜氏は、ある会報に次のように書いています。

「それから50年ほど過ぎて1677年(延宝5)頃、郡代高力忠兵衛の農政があつて、そのでたらめな施策で領内は著しく疲弊した。

忠兵衛より藩主忠義への報告は虚偽なものばかりであつたが、忠義はそれを本当のことと思つて忠兵衛を高く評価し、加増を繰り返して、忠兵衛は高600石の上士となつた。

後に忠兵衛は郷入り(座敷牢に禁錮)に処された。」

郡代とは、藩の農政と財政を司る役職のことです。

高力忠兵衛は、春請免を採用し、春の時点で年貢高を農民に承諾させ、不作の年は未納分は貸米にして、年3割の利米を取りました。

## 相馬半兵衛の訴状

1681年(天和元年)5月、四ツ興屋村(藤島三和)の相馬半兵衛が、来庄中の幕府巡検使に忠兵衛の悪政の訴状を提出しました。

訴状では、貸米元利を含めた年貢は、その年の収穫米全部を納めても足りず、百姓たちは田地や妻子を売り、ようやく納入している」と記されていました。

相馬半兵衛は、相馬一廣氏(旧藤島町元助役)の家の3代目です。

# ひと

## 日下部勇一(庄内町横島)

### 波瀾(乱)万丈の人生

青山 崇

#### ■安保学校開校

60年代から70年代は安保条約反対・日韓基本条約反対の運動、さらにベトナム戦争反対運動が盛り上がっていました。

勇一の「民責余自班」でも、夜中に、電柱にステッカーを貼りつけたところ、警官に見つかり、稲杭に転々と隠れながら逃げ、事務所泥んこになって辿り着いたのは真夜中だった。

安保条約10条は、「十年間効力を存続した後、は、いずれの締約国も、他方の締約国に対しこ

あつた。

運動の軸は、笹山一夫、佐藤一雄、日下部勇一の3人男であつた。

1969年3月、「田川地区安保学校」が開校した。

学校長・笹山、実行委員長・佐藤、事務局長・勇一である。

私は3人男の前に「安保」を付けて、安保3人男と呼んだ。

山崎昭夫、斎藤英雄、青山崇らで講師団をつくり共に学んだ。

学習は平和の力、3人寄つたら学習しよう、などが台言葉で、



## 侵略はフラウダだ

ロシア軍の撤退した後に、たくさん民間人の死体が見つかった。地雷もばらまかれてあると言う。これが恐ろしい戦争の実態だ。それにまた、この港を「俺によこせ」とプーチンが言ったと言う報道も。これじゃ解放でなく侵略でしょうが。

▲冬でも凍らない港は、ロシアにとつてはどうしても欲しいものなんだというが、そんな事を口にしたこともロシアでは報道されていないのかも。従つて、いわゆる大本営発表しか見る事が出来ないロシアでは、この戦争はロシア人を守る「聖戦」だと思わせる事に。

▲元の日本でも「聖戦」と言つて、これに疑問を口にだせば「国賊」と呼ばれたが、ロシアでも直ぐに逮捕・監獄行きだろう。それ

学習の輪は広がった。

今日の「田川革新懇」の一つの土台になっている。

お辞儀しすぎて額を打つ」など、演壇と特別な関係があつた勇一と演壇について、新発見した。

話し中首を横に振ると、演壇を舐めている様に見えるのである。



プーチンの支持率は80%を超えているんだろ。戦争遂行者にとつてはバンバンザイというところだろうが。

▲不思議に思うのは、ロシアの国連代表だ。この方、家で家族とみるテレビはロシアからのテレビで無いわけだから、国連での発言のように「フェイクだフエイクだ」言いながら見ているんだろうか。

▲併せて、世界各国の大使館にいるロシアの方々は、プーチンが映るニュースをどんな風に受け取っているんだろうか。地元からは「プーチンは戦争やめろ・ウクライナから撤退しろ」と、連日のようにデモを仕掛けられているんだらうからサ。

▲家族の中での話合いは、あの頃の日本のように、「そげだ事言つてんな聞こえつど、首なつてママくわえなぐなつさげ、しゃべんな」だらうか。フラウダはロシア語で本当(石川)